

平成 29 年 12 月 22 日

平成 29 年度 校務改善推進事業発表会について（報告）

1 日時 平成 29 年 11 月 29 日 午後 2 : 00～午後 4 : 40

2 場所 都庁第一本庁舎 5 階 大会議場

3 内容

- 今年度の取組報告
- 事例発表（府中市立府中第三小学校・世田谷区立船橋小学校・稲城市立稲城第三中学校）
- 参加者と発表者・事務局による質疑・応答

4 参加者

- 346 (298) 名 ※ () 昨年度人数
- ・校長 80 (87) 名 ・副校長 122 (101) 名 ・主幹教諭 26 (35) 名 ・主任教諭 22 (11) 名
- ・教諭 3 (3) 名 ・学校事務 63 (41) 名 ・教育委員会 30 (19) 名

5 事例発表の内容

(1) 事例発表 1 府中市立府中第三小学校

「教師も子供も生き生きと輝く学校」

学校組織マネジメントの考え方に沿って、目指す学校像の共通理解を図るとともに、中期目標と今年度の取組目標を明らかにすることで、教職員の力を一方向にまとめました。また、個人の取組を自己申告で管理することで PDCA サイクルが回るようにしています。学校運営組織の改善を行い、通常校務対応部会（A 部会）と教育課題対応部（B 部会）を設定し、ミドルアップマネジメントを機能させることで校務改善とともに OJT を推進しました。

校務改善に取り組んだきっかけ

- ・教育課題の複雑化・多様化による教師の多忙感の軽減
- ・組織目標の明確化
- ・スクラップ&ビルドへの意識転換
- ・費用対効果の意識を持つ必要性

【ミドル・アップダウン・マネジメント】

- ① 学校運営組織の改善（四部会→A 通常校務対応部会、B 教育課題対応部会）
- ② ミドル層に期待される役割

【日常の教育活動の OJT 化】

- ① 職層による人材育成を意識した意図的な人材配置
- ② 責任を与え、主体的な職務遂行の促進

【目標管理による学校経営計画】

- ① 目指す学校像の共通理解を図る
- ② 校務を分類し、中期目標と取組目標の共有
- ③ 今年度の重点及び具体的な方策の提示

【教員の事務負担軽減】

- ① 校務改善支援員の活用
- ② 事務室の機能強化

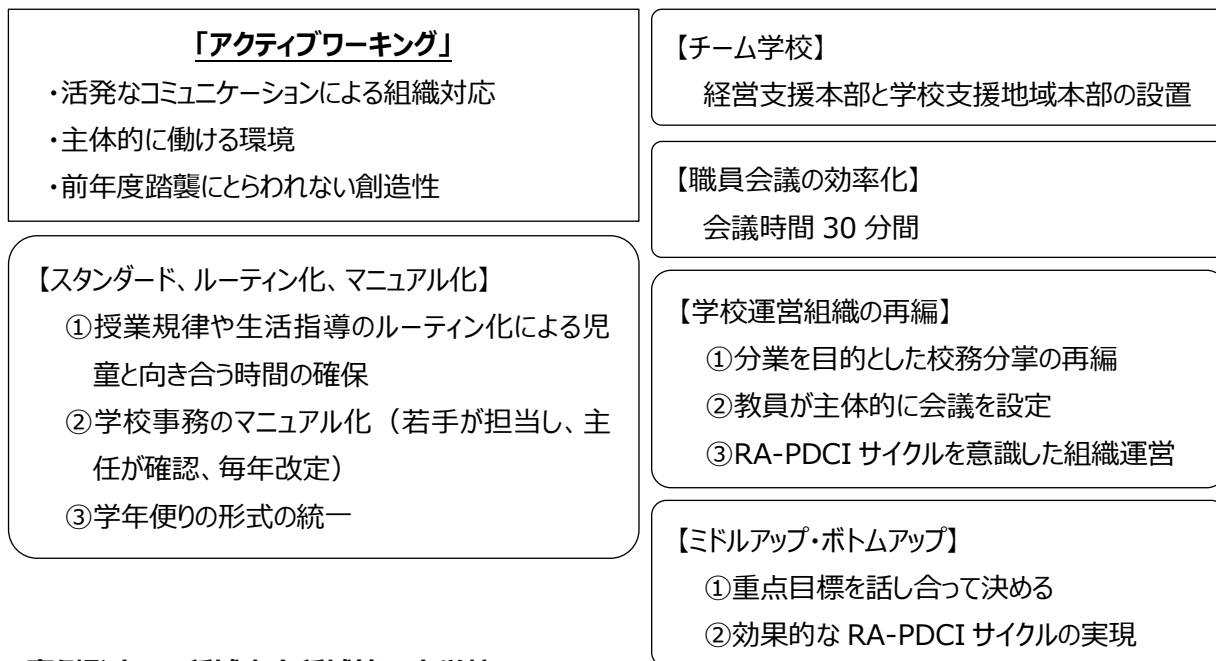
【校務支援システムの導入】

- ① 校務の効率化による時間短縮
- ② ICT 活用による教育活動の効率化
- ③ 一斉学習、協働学習、個別学習での活用
- ④ 活用能力を向上するための研修会
- ⑤ 教員の ICT 活用能力の向上
- ⑥ 児童が主体的に取り組む「分かる授業」の実現

(2) 事例発表2 世田谷区立船橋小学校

「児童と向き合う時間の確保と校務改善」

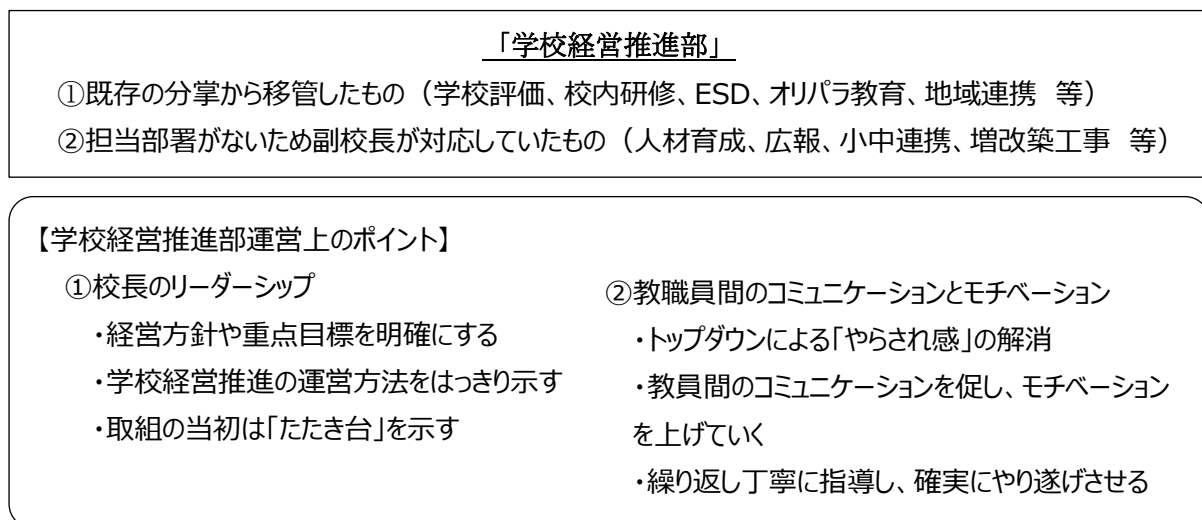
教員が子供と向き合う時間を確保し、多忙感の解消を校務改善によって実現するために、「チーム学校」として教員一人一人が力を発揮できる環境づくりを進めてきました。その根本には、「アクティブワーキング」と呼べるような教職員の活発なコミュニケーションによる組織的対応があります。学校運営組織を再編し、会議の精選・効率化を図る中で、話し合いで物事を決める「PA-PDCI サイクル」を回してきました。ミドルアップ・ボトムアップを大切にすることで、教職員が主体的に学校運営に参画し、校務改善を推進しました。



(3) 事例発表3 稲城市立稲城第三中学校

「学校経営推進部の設置について」

校務増加に対応、地域連携の強化、学校経営基盤の強化を行うために、「学校経営推進部」を設置しました。「学校経営推進部」で担当する校務は、①既存の分掌から移管したもの、②担当部署がないため副校長が対応していたものです。これにより、校務の役割分担の明確化、新しい教育内容への着実な取組、学校経営に対する参画意識の向上といった成果を上げました。



6 参加者の感想について

資料2 参照